



三春中学校だより

第12号

発行日 平成30年 6月18日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【子どもたちへ最高の授業・指導を！ ～続けざまに理科の授業研究が行われました。】

新田先生の2年生、長谷川先生の3年生、二瓶先生の1年生、それぞれの理科の授業研究が続けられました。県中大会を前にした慌ただしいときにはありましたが、本校の先生方、そして、子どもたちは、日々の授業に一生懸命取り組むことの大切さを自覚し、興味・関心をもった中で、自ら考え、共に話し合い、互いに高め合い、より確かに、深く学ぼうとしています。

三春中学校の今年度の現職教育（先生方同士がテーマを決め、よりよい教育の実現にむけ、さまざまなことに共同して研究する取り組み）のテーマは、『学年型教科教室の学習環境を生かし、主体的に学び続ける生徒の育成』～活動的・協同的・反省的学びを取り入れた授業の実践を通して～というものです。その研究テーマを受けて、各教科においては、教科ごとの研究主題をはじめとする研究構想を構築し、子どもたちの学力向上をめざしています。



【『つなぐ』！ ～バトンをつなぐ。『命』をつなぐ。～】

校長室から外を眺め、子どもたちの生き生きとした姿を見るのが大好きです。校庭では、保健体育の授業において、4月からさまざまな陸上競技に取り組んできましたが、1年生がリレーでバトンをつないでいました。その生き生きとした表情がとても美しく爽やかに見えました。

校門での朝のあいさつから戻るとき、通学路に咲く、さまざまなかわいい花々が目に入ります。黄色や白、校長室には、バラの花が一輪咲いています。今年度、子どもたちや先生方には、『命の輝き』をどんなものでもいいので、見つけ、見つけさせてくださいとお話させていただいています。学校生活の中で、人と決して比べるものではなく、自分にとってかけがえのないものを、一つでいい、もし、今もっている人ならばさらに多くのものを、いわば、「自分にはこれがある」=『命の輝き』というものを見つけていきましょう。そして、その根底には、『命』の大切さを最優先にということも、機会あるごとにお話しています。安全・安心な学校環境なしに学校生活は考えられません。『命』の大切さ、

かけがえのなさを最優先に、子どもたちが安心して、安全な中で学べるような学校をまずはつくってまいります。

道ばたや校長室に咲く花々も、派手ではありませんが、地道に、しかも、粛々と、自ら、種としての『命』をつなごうと花を咲かせています。



【『三種の神器・学習訓練・認め・励ます・責任・基本的生活習慣』～大切にします。～】

下の写真、左上から順に、三種の神器の模型は、3年生社会科教室前に展示されています。先日の郵便ポストの展示に続き、社会科の内容について興味・関心をひく展示です。教科教室方式の指導のまずはじめとして大切な、「学びの学習環境づくり」の一つの形です。上段中程の写真は、授業における学習訓練の指導の一つです。人に説明するには、説明することについて、まず、自らが理解していなくてはならないし、説明することでより理解が進みます。その説明の仕方の一つの形が示してあります。上段右の写真は、ALTの先生が課題をチェックしている風景です。課題を与えっぱなしでは、生徒の意欲は決して高まりません。生徒一人ひとりのがんばりを認め、励ますことで、生徒の心に達成感や充実感が育ち、それは、次の学習への意欲にもつながります。

下段左の写真は、保健体育での走り高跳びの授業の一コマです。段階に応じた練習に主体的に取り組みと共に、互いに聴き合い、教え合い、学び合い、それぞれのレベル向上をめざします。学習において本校では、生徒の『聴き合い、学び合い』ということを大切にしています。意見交換のみならず、互いに相手の存在を認めつつ、多様な視点からの考え方を学び、よりよく学び、互いに高まり合うことがねらいです。下段中央は、後輩から部活動の先輩に贈ったエールです。中体連に臨む先輩に対し、「がんばれ！」の励ましやこれまで自分たちを導いてくれた、後輩からのお礼の言葉などが綴られています。下段右の写真は、部活動で使用したグラウンドを黙々と整地し、ならしている生徒の姿です。思いやり、感謝、整理整頓、責任感など、三春中学校は、道徳の指導にも着実に取り組んでいます。

先生方のさまざまな働きかけや生徒同士の学び合いを通して、互いに磨き、高め合いながら、たくさんの方が学ばれる場が三春中学校です。やがて子どもたちが社会の中で信頼され、主体的に生き、充実感や自己存在感をもって立派な社会人として生活できるようになることをめざして。

